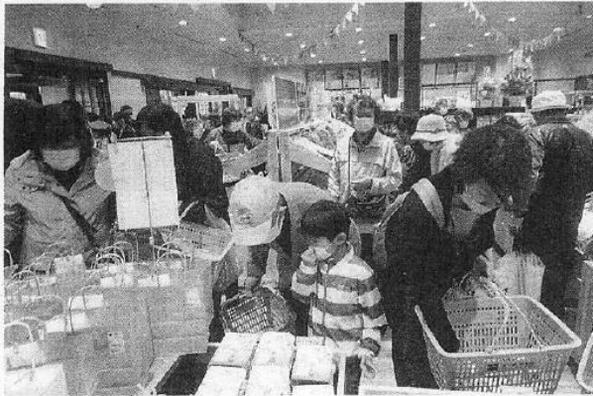


道の駅運営 本格化

店舗改装 「ピクニック」コンセプト



大勢の買い物客でにぎわう道の駅

国道7号上り線沿いの同道の駅は1994年に設置された。30年近く経過し、老朽化が顕著となり、利用者も減少傾向にあったことから新発田市が見直しを計

画し、併せて管理者も民間に切り替えることにした。これを踏まえ、近くに本社を構える同社が手を挙げ、入札に臨み、22年4月から5年契約を結んだ。

明治時代から花見や河川敷で余暇を過ごしていた同地域の習慣を現代に置き換え、「ピクニック」をコンセプトに施設整備を推進。瓦屋根の和風の建物内に、青果物やオリジナルグッズなど地元物産品の販売コー

大型車9台駐車可

【新潟】三福運輸（五月女奈緒美社長、新潟県新発田市）は「道の駅加治川」の運営を本格化させる。2021年6月に同市から指定管理者に選ばれ、社内に道の駅事業部を新設して準備を進め、4月23日に店舗がリニューアルオープンした。女性とトラックドライバー、二つの視点での施設づくりが特徴で、初日には時間規制を設けて入場させるほど大勢の買い物客が訪れた。

（河野元）

三福運輸

ナー、レストラン、観光案内所、イベントスペースを設けた。テイクアウトフードとして、ジェラート、から揚げも用意している。様々な商品を取り扱う

中、五月女社長の前職、航空会社の客室乗務員の経験も生かし、機内食を販売するのも魅力の一つ。タイ、インドネシア、中東の3種類のメニューが地上でも味わえる。

また、併設のパン工房は午前7時から売り出した。め、トラックドライバーをはじめ、朝の早い人たちのニーズにも応えられる。

駐車スペースは大型車9台、乗用車64台、身体障がい者用3台。館内では無料Wi-Fiが使える、店舗で

の支払いは現金だけでなく、各種電子決済も可能だ。多目的トイレ、ベビールームを備え、授乳やおむつ替えが安心してできる環境も整えた。

同日行われた記念式典で、駅長を務める五月女氏が「よそでは手に入らないグッズも扱っている。地域の皆さん、働く人たちに愛される道の駅へ、スタッフ一同、精進する」とあいさつした。

新発田市の二階堂馨市長は「このような施設は行政が支援するパターンがほとんどではないか。しかし、ここは4年目から賃料が発生する。成功すれば全国のモデルケースになる」とし、五月女氏の「もてなしの心」に期待。自民党の斎藤洋明衆院議員（新潟3区）、新潟国道事務所の高崎洋一副所長も新たな船出にエールを送った。

この後、チェンパロシの笛のコンサート、日没後はプロジェクションマッピング映像が映し出され、来場者を魅了した。